

令和元年 6月 14日

浜田市議会議長 川神 裕司 様

議員名 西川 真午



調査研究活動報告書

下記のとおり、調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

- 1、期 間 令和元年6月4日
- 2、視察内容 「寺子屋」事業について
- 3、視察先 島根県松江市雑賀公民館（松江市教育委員会）
- 4、調査経費 1,141 円
（内訳）

浜田市役所で待ち合わせし、道下議員の自家用車にて高速道経由で雑賀公民館まで往復した。

	金 額	備 考
高速道路通行料	3,280 円／5 名＝ 656 円／1 名	浜田⇄江津、斐川⇄松江玉造
自家用車燃料代	2,428 円／5 名＝ 485 円／1 名	浜田⇄雑賀公民館＝135 k m
合 計	5,708 円／5 名＝1,141 円／1 名	

5、調査研究活動の概要

下記のとおり、調査研究のため視察を行ったので報告します。

	松江市	浜田市
市長	松浦正敬 71 歳 14 年	久保田章市 67 歳 5 年
地理	宍道湖、中海を抱く風光明媚な水の都。 古代出雲文化圏の中心地で、15年に天守が 国宝に指定され、18年に中核市に移行した。	旧石見の国の中心地として栄え、山陰を代 表する軍都であったが、現在では水産都市と して機能している。
市町村合併	05年に松江市、鹿島町、島根町、美保関町、 八雲村、玉湯町、宍道町、八束町が、 11年：東出雲町が合併。	05年に浜田市、金城・旭・三隅町、弥栄村が合 併。



特産品	八雲塗、出雲石灯ろう、出雲めのう細工、袖師焼、布志名焼、楽山焼、火の川焼、大和しじみ、玄丹そば、牡丹、津田かぶ	どんちっち三魚、のどぐろ・かれい一夜干し、赤天、石州和紙、石見神楽面、赤梨、西城柿、(酒)やさか仙人、環日本海、弥栄のどぶろく
観光	松江城、興雲閣、ホーランエンヤ伝承館、小泉八雲伝承館、明々庵、堀川遊覧船	海洋館アクアス、マリン大橋、石見畳ヶ浦、石見神楽
面積	573 km ²	691 km ²
人口	203,000 人	54,000 人
人口密度	354 人/Km ²	80 人/Km ²
高齢化率	27 歳 ⁺	33 歳 ⁺
歳出決算総額	972 億円	385 億円
自主財源比率	40.5 歳 ⁺	34.0 歳 ⁺
財政力指数	0.57	0.41
実質公債比率	15.1 歳 ⁺	10.1 歳 ⁺
将来負担比率	119.9 歳 ⁺	72.3 歳 ⁺
職員数/千人	11.7 人	12.15 人
議員定数	34 人	24 人

6、調査報告

(1) 調査に至った経緯

・道下議員が、松江市の「寺子屋」事業を4月の新聞記事で知り、他の議員にも呼びかけて視察することとした。

(2) 調査内容

- ・案内……、「議会事務局 議事調査係」月森 専門企画員
- ・説明……、「教育委員会 学校教育課」後藤 小中一貫教育推進係長
- ・ // ……、「教育委員会 生涯学習課」渡辺 社会教育主事
- ・ // ……、「松江市雑賀公民館」 赤木 公民館長

ア) 取組の経緯

◆松江市は、2016年度の全国学力テストの調査で、市内の中学3年生のうち、平日1日当たり1時間以上の家庭学習をした生徒数は全体の半数にとどまり、割合は全国平均の▲15.4ポイントであった。

◇そこで、市教委が、一部の公民館などが小中学生や高校生を対象に進める学習支援の仕組みを全市に広げようと計画。家庭学習を支援すると共に、共働き家庭の子どもの居場所づくりなども狙い、小中学生を対象に事業を始めた。

◇事業の対象は、各地域で立ち上げた運営委員会から市教委を選んだ。

◇実施時期や教科、教え方などは各運営委員会に任せた。

◇17年度中に36回の実施を上限とし、講師料や消耗品費などを補助した。

◆市教委は現在、放課後の支援事業として

①小学1～3年生を対象にした、放課後の「児童クラブ」

②全小学生が、1～2回活動/週の「放課後子ども教室」

などを展開している。

イ) 事業概要

・放課後や休日に公民館や学校で、教員OB・大学生・地域住民・公民館職員が、自主学習を基本とした小・中学生の学習支援や居場所づくりに取り組む。

ウ) 実施回数

・原則として、2回/月以上 or 24回/年以上

エ) 補助金

・指導員謝金（交通費含む）：max1,000円/時間の他、保険料や運営消耗品など、max236,000円を補助する。

オ) 実績（3年間）

	実施館数	参加児童数
平成29年度	7	419名
平成30年度	11	692名
令和1年度	13	800～1,000名（目標）

カ) 成果（抜粋）

- ・始めと終わりの号令を子どもたちに実施させていて、活動には集中して取り組んでいる。
- ・子どもたちの居場所が出来て、満足そうである。
- ・指導するほうも、子どもたちや地域の方と交流が進み、満足しているとのこと。

キ) 課題（抜粋）

- ・参加児童が多く、部屋不足のところがある。（逆のところも）
- ・来てほしい子ども（学力向上、家庭で十分見てもらえない）が来ていない。
- ・指導員の確保が難しい。

ク) 今後の方向性

- ・実施団体の拡充（モデル等の掲示）
- ・実施団体と学校との連携
- ・家庭学習の充実と、地域で子どもを支える環境づくり

コ) まとめ 【雑賀公民館長（赤木さん）】

平成30年度に実施したところは、今年度も全館実施の意向であり、それぞれ「手ごたえ」を感じたことが大きな理由である。参加した子どもたちだけでなく、保護者や地域、学校からも高い評価を得ている。

一部では、目的をもっと明確にしてとの意見もあるが、誰もが参加できる場を設定していく中で、もっと学校と連携を強化してこの事業を拡充していく工夫が必要である。

来年度は、現在の形で継続しながらより充実したいと考えているところがほとんどであるが、自学だけでなく、より積極的な学習の場を設けたいと考えているところも少なくない。

また、現在の事業は補助金があるから実施できている部分が多いので、予算面でより一層の

松江市の支援が必要だと考える。

終わりに、全体ではこの事業の必要性を感じていないという公民館が多いが、地域や学校の実態、公民館の立地などによって状況は異なるが、地域や学校の声を十二分に吸い上げて可能な限り「まつえ寺子屋」事業を実施するところが増えていくことを期待している。

(3) 所見

この事業の当初の目的は、全国学力テストの調査で市内の子どもたちの家庭学習時間が短いことを受け、学習の習慣づけ、学習意欲の喚起を図り学力向上に結びつけることであったが、事業実施後の効果としては、子どもたちの居場所づくりの側面が大きいように思える。これは、地域内で専門的な指導者を確保することの困難さや、地域の学習塾との兼ね合いが理由としてある。事業の実施団体は実質的に公民館となっており、全32館中で今年度実施しているのは13館にとどまっている。これは、公民館側では公民館事業のひとつと認識され、他の事業で手一杯の公民館では実施が難しいからであると考えられる。

浜田市においても小中学校の学力向上は大きな課題であるが、同様の事業を行うのであれば、公民館以外の実施団体を検討するなど、松江市の事業を参考にして浜田市独自の施策を検討する必要があると感じた。



【 左から赤木公民館長、後藤小中一貫教育係長、渡辺社会教育主事の説明を受ける 】